

第6回豊橋市教育課題検討会議 議事録（要旨）

平成26年10月20日（月）14：30～

場所：豊橋市役所 東80会議室

- 1 出席者 委員 稲田 充男、白井 正康、岡本 賀生、市川 英輝、笹野 壽
大久保 貴子、羽柴 留美、鈴木 恵美子※敬称略
事務局 加藤 喜康（教育政策課長）、宮崎 正道（学校教育課長）、
山本 誠二（教育政策課課長補佐）、上野 喜一郎（学校教育課指導主事）、
三浦 正雄（教育政策課主査）、大橋 史明（教育政策課主事）

2 事務局あいさつ 教育政策課主幹）

- ・前回協議していただいたことを基に、今後、豊橋市がめざす方向性についてご協議していただき、最終的に提言書の骨格をなる部分を決めていただきたい。

3 議 事

《委員の主な意見》

【国の動きなどについて】

- ・中央教育審議会から小中学校の統合に関する提言が出ていましたが、それについてはどのように考えていますか。

（事務局）豊橋市でもそのような状況になることを想定して、検討はしてきている。豊橋市では適正規模の学級数を12から24学級と定めている。11学級以下の学校は、小規模とし、さらに少なくなり複式学級になると過小規模校として統廃合を検討することとしています。その前に特認校制を導入してそれでもだめなら統廃合を行うとしている。

- ・将来的に統廃合をしていくのであれば、現段階で進める小中一貫教育は大規模に行わなくても良いのではとも思います。

（事務局）前回の可視化できるものはないのかと指摘がありました。全国的な傾向として小学校6年生から中学校1年生にあがるときに3倍位になります。前芝小中学校では、小学校6年生から中学校1年生にあがる時は、ほとんどいない状況であるが、2年生、3年生に上がる段階で増える傾向にあり、市内の平均値と同じようになる。

小沢小学校は7年間で1人しか不登校がいない。細谷は1人いる。五並中学校は少ない傾向にあるが、2年生、3年生になると増える傾向にある。そのため小学校から中学校への接続の部分では一定の効果があると言えると思う。

豊橋市では、小学校及び中学校の両方の免許を持っているのは、小学校の教員では78.3%であり、中学校は66%である。一方で全国平均は、小学校教員で61.8%、中学校教員で26.9%であるので、豊橋市はかなりの者が両方の免許を持っている状況です。そして、年齢層で

みていくと、中学校の教員の若年層は両方の免許を持っている者が少ない傾向にあるが、豊橋市では片方の免許しか持っていない教員に対しては通信教育などを利用してもう一方の免許を取得するように促しています。

また、人事異動では、意図的に小学校から中学校へ、中学校から小学校への異動を行っています。このような基盤が全国に比べて豊橋市には、があることも両方の免許を持つことにつながっていると思う。

・愛知県は、小中学校の人事交流が盛んであり両方の免許取得者が多い傾向にあるが、他都市では小中学校の人事交流がほとんどない。

中1ギャップについても、規模が小さいので数字としては顕著に表れないが、小学校から中学校への接続の部分では何らかの効果があると思える。

文部科学省の中央教育審議会で9月26日に小中一貫教育の特別部会が行われた。議事メモに、小中一貫教育はかなり負担が大きいという意見があり、加配をしてはどうかという意見が出ている。接続のつなぎを考えると、1名の教員を中学校から小学校へ派遣するのであれば、2名は加配が必要であろうと議題があがってきている。

三鷹市のように学園構想を進めるとすると、学園長に権限を付与しないと進まないのではないかと思っている。

【小中一貫教育の導入可能性について】

・個人的には賛成していて、推進してほしい。教科担任制へは、理科で言えば観察で絵を描くことは多いが、実験が少ないので増やしてほしい。

・算数・数学に関しては、専門の先生に教えてもらいたい。できる子にも配慮できるものがあるといい。モノづくりを目指すのであれば、理科だけではなくて、算数・数学にも力をいれたい。

・算数に関しても賞がもらえる取組みがあるとうれしい。読書感想文やポスターなどのように。

・理科を教科担任制を進めていく場合、市費で教員を雇うのですか？

→人材がおればいいですが、いないと雇う事になります。理科は、免許を持っている教員が、一番少ないので集めるのは大変なことです。現状、専科教員がいますが、21人が音楽、1人が理科で理科が少ない。

白井) 人は難しいですね。

年齢は65歳までだと思う。とんでもない先生を受けることになるといけないので、ある程度選ばないといけない。

稲田) 免許があれば、専科でも教えることができる。

白井) 豊橋技術科学大学は、教員免許を取れるの？

学校教育課長) 通信などで取っていると思います。

市川) 教員の支援が重要である。やることは、効果もありいいと思うが、教員の手当があつた上でという風に進めないといけない。教員に子ども達と十分に向かい合う時間がないと、逆に荒れてしまう事になりかねない。

OECD の調査によると、日本の中学校の教員は、一番残業時間が長く自己肯定感を持っている人が少ない。

数学については、少人数学級や TT でやると伸びると言う事は顕著に出ている。

鈴木) 管理職の先生が、書写とかを教えているが、PTA の用件でアポを取ろうとしても授業があつて約束がとれないことがある。一般の教員の負担軽減が図られても管理職が、本来やるべき管理職の業務がおろそかにならないようにしてほしい。

羽柴) 豊橋市の魅力は、広報とよはしを見てもいろいろなことを経験できる。豊橋市には、いろいろなことを体験させることができる機会に恵まれている。

岡本) 施設一体型は、併設型を含むとありますが、小中一貫教育の一般的な定義でいうと 1 人の校長が小中学校を見ると断りをいれないと誤解を生む。

加藤) 今後統廃合をするときは、小中一貫校として施設も一体型で進めていく予定である。たまたま前芝は、施設併設ですが、

白井) じゃあ、何が変わるのか？

基本的に今までやってきたことと何も変わらないではないか？

可視化できるものがない。

前芝は、やりますよ。ただし、分離型のところはやりませんよ。

ただ、どこかで統合をやることがあれば、可能性としてやりますよってことだと替わるところはない。

今までとどこと何が違うのか？を打ち出したい。

今までもやってきていますから、それでいいですよという風に読める。

それで良いのでしょうか。

マトリックスをしっかりと作らないといけない。

施設分離型と併設型を分けて考える。

カリキュラム、ベクトルは一緒にしていく必要がある。

そこまでの道筋を作る。何年までにどこまでやるかのプロセスを作らないと具現化できない。新しいことをやる時は、2割が賛成、4割が静観、4割が反対であるから4割の静観をどれだけ賛成に回すことができるかが、大切、

稲田) 導入可能性としては、これくらいになってくるのかなと思います。
負担感の増加ばかりで、その負担感が生徒に移っていく状況になりかねないと思います。
いける中で予算を確保できるのかできないのかという状況もある。

白井) ロードマップのマトリックスを作成していくのは、学校間で温度差があるからスタートするレベルはまちまちで良い。しかし、上に向かって進めていかないと動かないと思う。

市川) 小中一貫は、学校によって温度差があるところは、事実で、児童会や生徒会が一緒になってやっているところもある。高岳小学校と東稜中学校で合唱旗揚げすると、大上段に全部やれと言われるといかんけど、ある程度示すとだんだん上がっていけばいいのかなと思う。

様々取組みを行っているが、小中一貫という視点で行っているわけではないから、意識付けを行うことが必要。

- ・簡単なマトリックスで良い。

自治会も小学校区に捉われず、中学校区に広げていけないのか。

- ・そこは難しいかも知れないです。

(事務局) 次回の開催に向けて修正するところは、修正する。

最高あと2回やれます。

何かあれば、意見をください。

次回：11月28日(金)午後3時30分から